大阪市立大学地理学教室
2007年度河崎調査について

大場 茂明
（大阪市立大学大学院教授）

河崎調査の概要

「地理学野外調査実習Ⅰ・Ⅱ」(前期･後期)

- 調査地の概要を知る(4～5月)
- 班編成とテーマの決定(6月)
  産業･建物、交通、まちづくり、年中行事
- 調査項目の選定＋スケジュール調整(7月)
- 現地調査(8月8～11日)
- 調査結果の整理(10月～)
- 最終レポートの提出(2月)

Ⅰ．伊勢河崎の地区産業と伝統的な建物

- 調査の目的

（1）河崎における産業構成の変化

まちの機能はどう変わったか？

(昭和6年、昭和30頃、現在)

（2）地区の伝統的な建造物（町家と蔵）

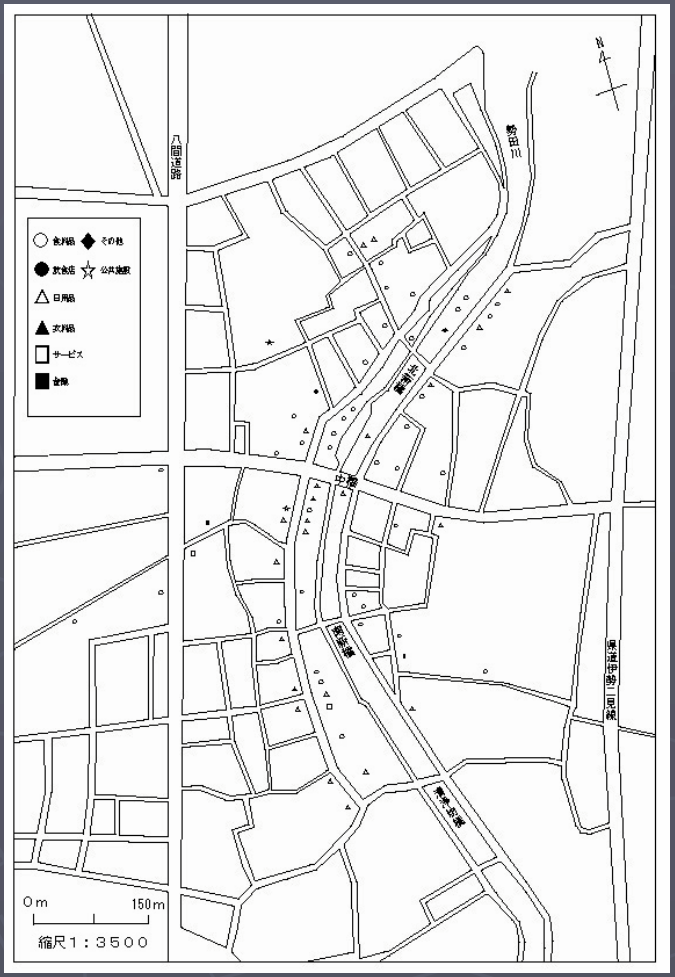
字別の特徴から地区の変化を見る

(昭和50年代、現在)

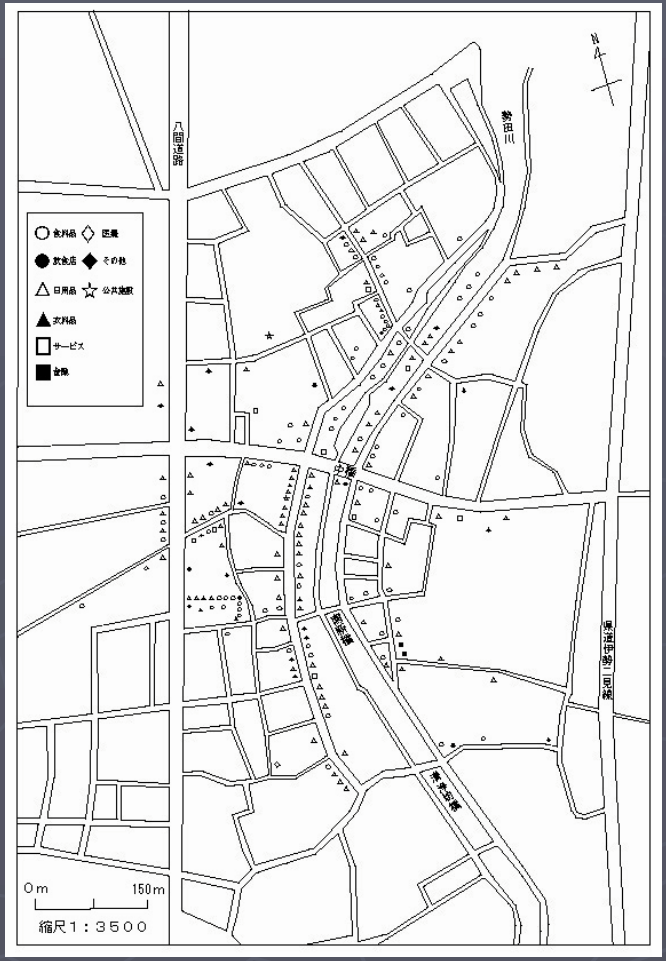
店舗分布の調査

- 地図と照らし合わせながら、店舗の位置を確認（昭和6年、昭和30年頃、現在）

河崎における店舗等の分布

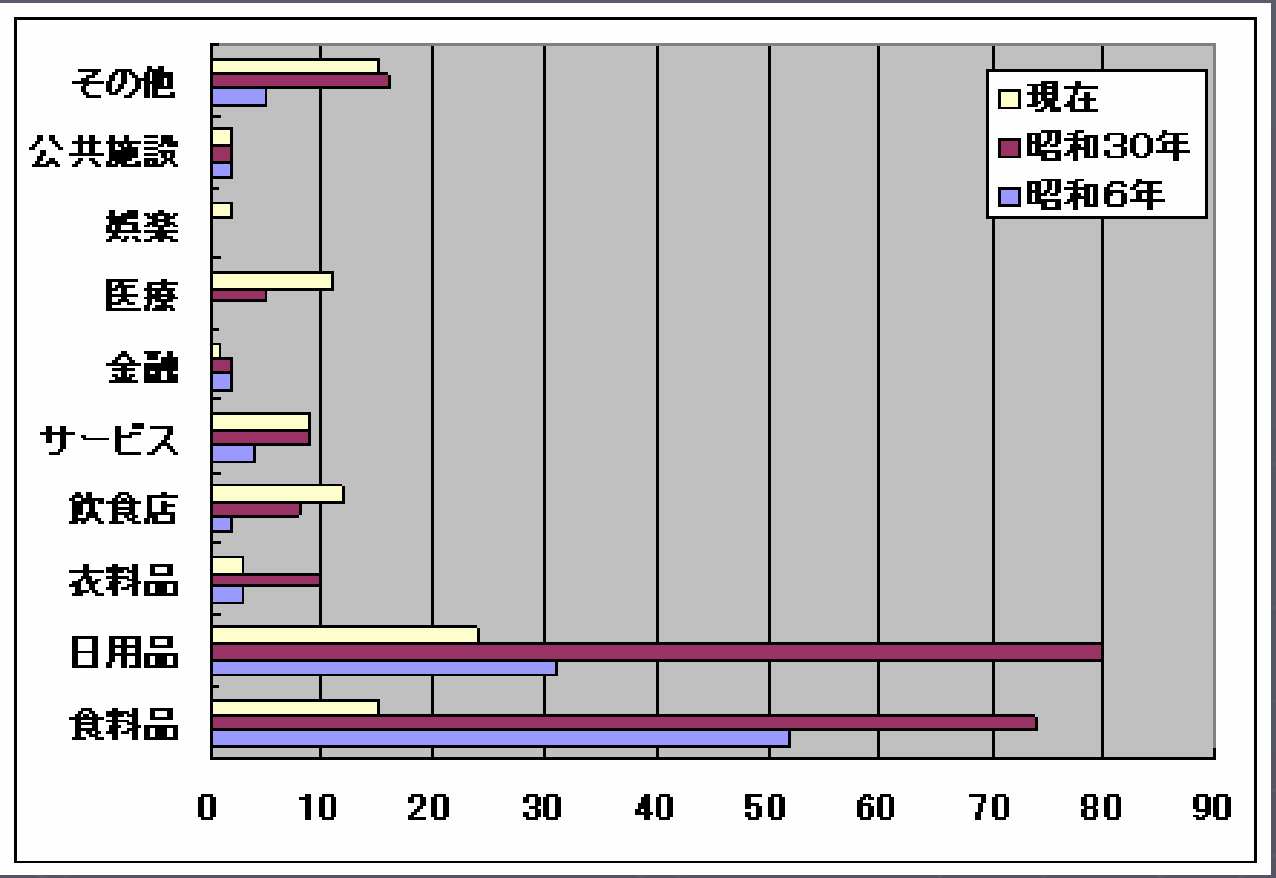


昭和6年の河崎



昭和30年頃の河崎

河崎の産業構成の変化



- 物資の集散地（商業中心地）から住宅地へ
- 卸売機能の衰退、店舗数の減少

伝統的建造物の字別分布と特徴

	二和	八ツ町	北里中	里中	南町	北側	南側	合計
河崎	８（８）	７（３）	５（２）	１５（４）	１９（１０）	６（５）	９（７）	６９（３９）

（ ）内は空き家数

- 二　和：　主家と離れた蔵　→専用住宅に建て替え
- 八ツ町：　川元・小川の酒問屋　→保存度のよい建物が多い
- 北里中：　魚問屋・銀行　→専用住宅・店舗併用住宅・蔵が混在
- 里　中：　河崎の中心　→公共・業務施設が多い
- 南　町：　商店が多い　→川沿いに蔵が多数存在
- 北　側：　日用品関係の店　→専用住宅の増加
- 南　側：　職人の町、蔵は少ない
  →専用住宅が多い、新しい様式の建物が多数存在

Ⅱ．河崎における交通の変遷

- 調査の目的

（1）水上交通の歴史

　船参宮と物資の輸送

（2）陸上交通の変化

　鉄道から自動車交通へ

（3）現在の交通事情

　交通問題、現在の水上交通

自動車輸送への移行

- 戦後、輸送体制がトラック中心に
  - かつて主役であった水運が衰退
  - それまでの道路交通の主役は荷車や馬車
- 市内電車廃止、バスへ移行
- 南勢バイパスや伊勢自動車道の開通
  - さらに自動車輸送の基盤が整う
  - 観光客も自動車利用が増え、鉄道利用は減少

（左）現在の伊勢市駅北口。外宮側とは全く異なる姿をみせる
（右）河崎停留所の跡地。現在は河崎東バス停がある

現在の交通事情

＊地区内の道路と駐車場

- 地区内の道路は昔の幅員（3～4m）のまま
  - なんとか車1台が通れる程度の道がほとんど
  - 本通りは大部分が一方通行に指定
  - 自動車の地区内への進入困難
  - 地区内に自動車が進入することによる危険

- 昭和55年の資料に比べて駐車場はかなり増加
  - 小規模（2～3台）の駐車場が点在
  - 駐車場の確保に関する問題

（左上）本通りに停車する業務車
（左下）細街路にある駐車場

（右上）すれ違いのため停車する車
（右下）中橋を通る道路

Ⅲ．河崎地区のまちづくりの現状と課題

- 多角的に見たまちづくり運動の現状を知る

↓

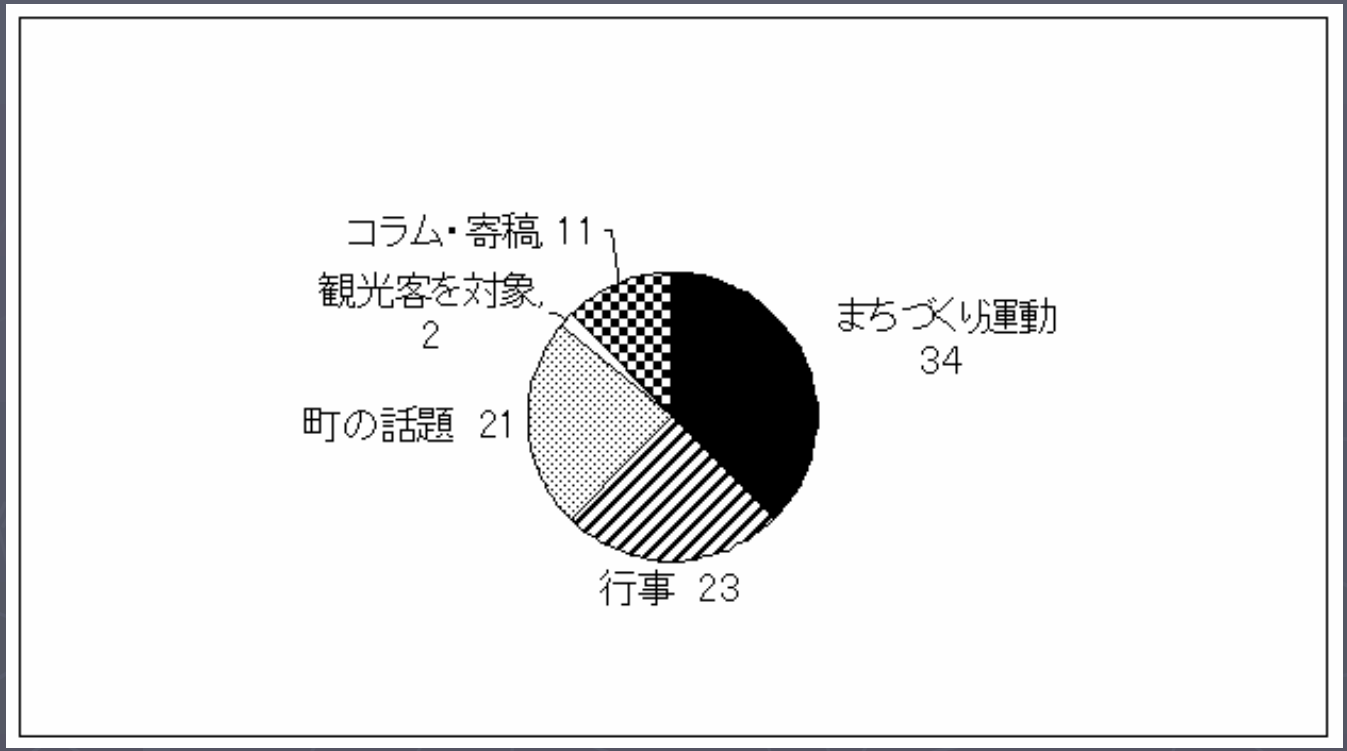
まちづくりの歴史

伊勢河崎まちづくり衆の活動

「河崎かわら版」

まちづくりと観光

「河崎かわら版」の記事内容
（過去2年間分）

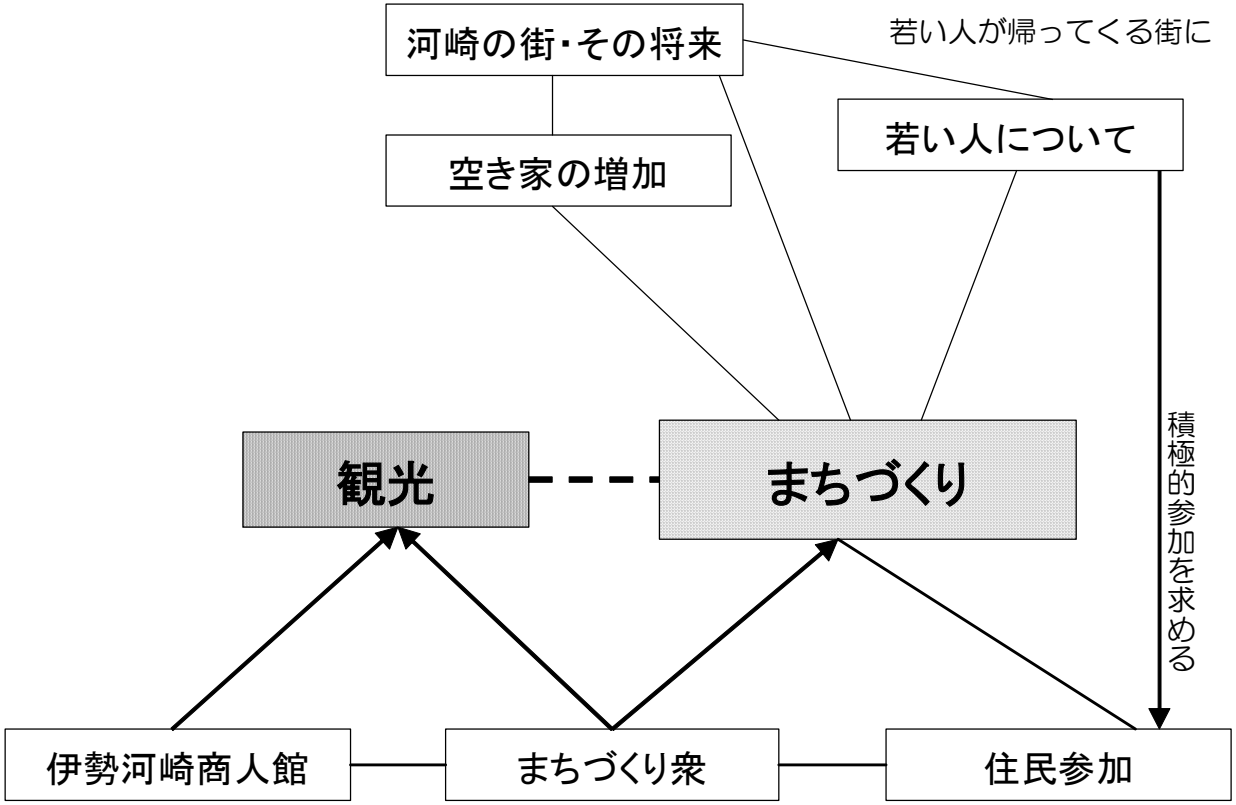


・外部の人への情報発信

・地域住民に対する情報公開

　→行事、ボランティア活動への参加者増加

まちづくりと観光


河崎の街・その将来
若い人が帰ってくる街に
空き家の増加
若い人について
観光
まちづくり
積極的参加を求める
伊勢河崎商人館
まちづくり衆
住民参加

インタビュー調査から

- 河崎の街そのものが抱える問題
  空き家の増加、住民の高齢化
- 住民（特に若い人）の無関心
- まちづくりへの住民参加の問題
  （NPOと住民側との温度差）
- まちづくり衆の現状と存在意義への疑問
- 観光とまちづくりは別のもの

Ⅳ. 河崎の年中行事

（1）天王祭の変遷

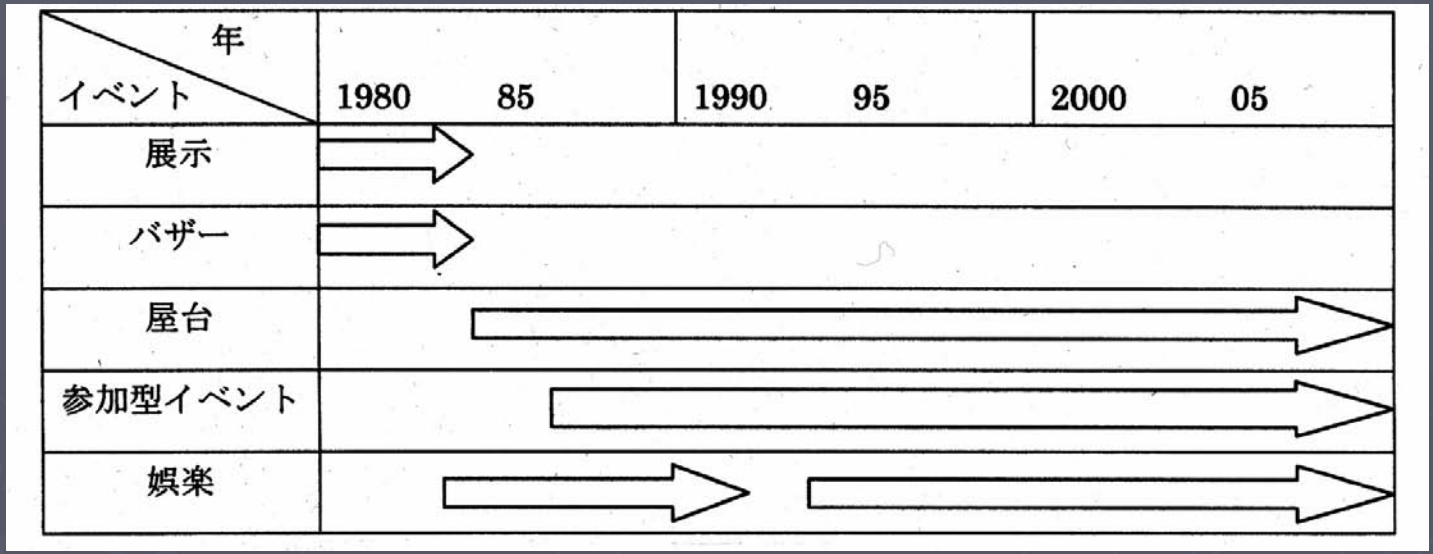
- 天王祭の発展は有力商人による財力が大きな影響を与えた。
- 戦後の河崎の衰退と天王祭の縮小は密接に関係。
- 人口減少と少子高齢化による参加者の減少、財源の縮小。
- 昔の天王祭に戻すというよりは、文化として今後も存続させたいという考え。

（2）天王祭イベントの変遷

- 大正～第二次大戦前
  花火・・・金魚花火、仕掛け花火など
  仮装行列・・・南側の住民が参加、賞金も

  神輿を出す、芸者を呼ぶなど多くの余興
  →商人たちの接待も兼ねる

天王祭イベントの変遷
（第二次大戦後～現在）



- 河崎まちなみ広場（1980年～）

出店、バザー、ライブ、じゃんけん大会など

初期は展示物が多いのに対し、近年は住民参加型のものが多くみられる。

調査のまとめと今後の課題

- 輸送手段・流通制度の変化にともなう地区の衰退

  →商業中心地から人口減・高齢化問題を抱えた住宅地へ

  （まちづくりへの住民参加、若年層の定着）

＊<u>域内の機能分担関係とその変化</u>

山田、神社ほか周辺地区との関係